



**TAKAMINE
WOOD**
木の総合カタログ



株式会社 高嶺木材

本社・工場
〒889-2311 宮崎県日南市大字伊比井173-1
TEL.0987-29-1234 FAX.0987-29-1434
URL.<http://www.taka-moku.co.jp/>

東京営業所
〒343-0023 埼玉県越谷市東越谷2-13-4 レオパレスBig/ハロー103号室
TEL.080-1543-4668 FAX.048-967-6712

大阪出張所
〒581-0815 大阪府八尾市宮町1-3-8
TEL.090-4514-7135 FAX.072-994-1631

鹿児島営業所
〒899-5431 鹿児島県始良市西餅田924-50
TEL.090-7464-8068 FAX.0995-73-5998

鹿屋営業所
〒893-0037 鹿児島県鹿屋市田崎町2837番地3
TEL.080-2690-5896 FAX.0994-45-4590

準不燃羽目板 施工要領

■保管方法

- ◎特に湿気の強い箇所、雨水や水などのかかりやすい箇所及び直射日光のあたる場所に保管しないでください。(塗装や接着剤の密着性が悪くなる原因となります。また、塗膜の剥離や白化の原因にもなります。)
- ◎施工現場で保管の場合や屋内に保管できない場合は、シートで保護してください。
- ◎水平な場所に、床下などの湿気を吸収しないように同じ高さのリングを置いて保管してください。
- ◎施工直前まで梱包を解かないでください。

施工前の注意事項

◎各商品ページに表記してある寸法は商品加工時の平均値のため厳密な数値は多少の誤差があります。
◎不燃処理された木材(準不燃羽目板等)は、施工中、外気と遮断されていない時(サッシ等)、湿気降雨時(特に梅雨時)等施工環境で湿気が高い時に、準不燃木材表面に結露や白化現象が起きる事があります。これは、準不燃薬剤の中には防火性能を高める為に、吸湿を促進させる物質が付加されているためです。溶脱した場合、不燃効果を低下させる事をあらかじめご了承ください。

施工後に溶脱・白粉結晶の析出した場合の対処

◎施工後、湿気が高く空気の流通が悪い場合、表面に水滴(結露)が付着することがあります。その場合、ウエスなどで拭き取ってください。水滴が付着した状態で放置しますと、水分が乾燥した後に白い粉が付着(結晶化)します。その場合、ウエスなどで拭き取ってください。特に性能上の問題はありません。

下地施工

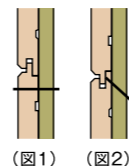
- ◎胴縁・野縁は、乾燥材を使用してください。
- 【注】石膏ボード・ベニア板を下地材に使用する場合でも胴縁(乾燥材)を使用し、材料の裏面にできるだけ湿気を持たさないように施工してください。
- 【注】コンクリートへの直張りは絶対に避けてください。下地がコンクリートの場合も養生期間を十分にとり、木下地を組んでください。(コンクリートの湿気を吸収し白化現象となります。)
- ◎施工面のレベル出しは行なってください。
- ◎胴縁(野縁)の間隔は、455mm以内で、製品の継ぎ目の下には、必ず胴縁(野縁)が来るように割付けください。

仮並べ

◎色味、目合い、節等の状態は、1枚1枚異なりますので施工直前に仮並べをしてからバランスをとり施工してください。欠点部分は取り除くか目立たない場所に使用してください。

張り方

- ◎施工時は室内の換気を良くして下さい。
- ◎接着剤(点付け)と釘の併用をしてください。
- ◎釘はステンレススクリュー釘を使用してください。
- 【注】難燃材が酸性タイプの為、鉄板・銅板・アルミニウム等は腐食しますので接触しないように施工してください。
- ◎使用する釘の長さは、施工する板厚の約2.5倍が目安です。釘は、板面に対し垂直に1本打ち(図1)または、凹(メス)サネ側からサネ打ちしてください。(図2)横張りの場合は、凹(メス)サネ側が上になります。
- ◎各商品ページに表記してある寸法は商品加工時の平均値のため厳密な数値は多少の誤差があります。あらかじめご了承ください。
- ◎施工する際、板幅のズレにより木口が合わなくなる場合は、調整しながら施工してください。
- ◎塗装した準不燃羽目板を鋸断加工した後は、必ず耐水性シーリング剤で木口シーリングを行なってください。また、加工する時は、防塵マスク・防塵メガネ・手袋などを着用してください。難燃剤は、人体に安全な物を使用しておりますが、切断又は研磨する際に粉塵が飛散するため厳守してください。
- ◎壁(天井)際は、突きつけずに、2~3mmずつ隙間をとってください。



端材の処理

◎可燃物として処理してください。

羽目板 施工要領

■保管方法

- ◎湿気の強い箇所、雨水や水などのかかりやすい箇所及び直射日光のあたる場所に保管しないでください。
- ◎水平な場所に同じ高さのリングを置いて保管してください。

施工前の注意事項

◎無垢材の性質上、施工の1週間程前に開梱した状態で現場環境に馴染ませてください。
◎各商品ページに表記してある寸法は商品加工時の平均値のため厳密な数値は多少の誤差があります。特に生産後湿度の影響により、板幅・板長さも±2mm程度伸縮する事がありますのであらかじめご了承ください。

下地施工

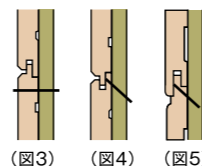
- ◎胴縁・野縁は、乾燥材を使用してください。
- ◎施工面のレベル出しは行なってください。
- ◎胴縁(野縁)の間隔は、455mm以内で、製品の継ぎ目の下には、必ず胴縁(野縁)が来るように割付けください。
- ☆下地に合板(9mm程度)を捨て張りすると、張り上がりの不陸が少なくなり平滑な面に仕上がります。

仮並べ

◎色味、目合い、節等の状態は、1枚1枚異なりますので施工直前に仮並べをしてからバランスをとり施工してください。欠点部分は取り除くか目立たない場所に使用してください。

張り方

- ◎接着剤(点付け)と釘の併用をしてください。
- ◎張り方は、釘(ステンレス・ユニクロ)、もしくはエアガンによるタッカー(ステンレス・ユニクロ)打ちとなります。
- ◎使用する釘の長さは、施工する板厚の約2.5倍が目安です。釘は、板面に対し垂直に1本打ち(図3)または、凹(メス)サネ側からサネ打ちしてください。(図4)横張りの場合は、凹(メス)サネ側が上になります。
- ◎PS301-J、PS311-Jは、凸(オス)サネ側からサネ打ちしてください。横張りの場合は、凸(オス)サネ側が上になります。(図5)
- ◎施工する際、板幅のズレにより木口が合わなくなる場合は、調整しながら施工してください。
- ◎サネ合わせ部分は、きつく締めすぎず、若干隙間をとるようにしてください。
- ◎板と板の縦方向の縦継ぎ方は、木口をカナテに切断し突きつけて納めるか、斜面カットのスカーフ継ぎで納めてください。このため、あらかじめ木口の長さの切断分を考慮の上、積算してください。
- ◎壁(天井)際は、突きつけずに、2~3mmずつ隙間をとってください。



フローリング 施工要領

■保管方法

- ◎湿気の強い箇所、雨水や水などのかかりやすい箇所及び直射日光のあたる場所に保管しないでください。
- ◎水平な場所に同じ高さのリングを置いて保管してください。

施工前の注意事項

◎無垢材の性質上、施工の1週間程前に開梱した状態で現場環境に馴染ませてください。
◎床下の防水を完全に施してください。特に、1階の床を施工する場合は、基礎コンクリートが十分に乾燥していなければなりません。
◎床下の換気口を十分に設けてください。(床下換気が不十分な場合、施工後にズレ・歪み・突き上げ・床鳴りが発生する可能性があります。)

下地施工

- ◎大引きは、90mm角以上・根太は45mm角以上の乾燥材を使用し、プレナーで平滑に仕上げてください。(クラック・反りの原因となります。)
- ◎大引き間隔は3尺、根太間隔は1尺(303mm)が最適です。根太は、床鳴りの原因にならないように大引きに水平に固定してください。
- ◎必ず合板の捨て貼りをし、合板は、12mm以上のF☆☆☆☆認定の耐水合板を使用してください。(床下の湿気が多い場合は、0.1mm以上のポリエチレン防湿フィルムを根太と捨て貼り合板の間に敷きこんで施工してください。)

仮並べ

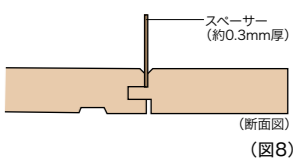
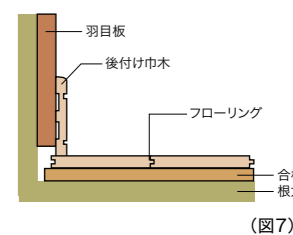
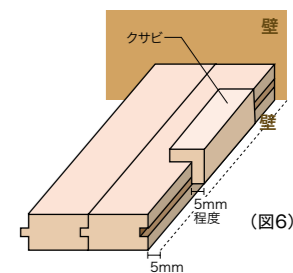
◎色味、目合い、節の状態は、1枚1枚異なりますので施工直前に仮並べをしてからバランスをとり施工してください。欠点部分は取り除くか目立たない場所に使用してください。

張り方

- ◎接着剤と釘の併用をしてください。
- ◎釘は、長さ:40mm以上の物でステーブル(股釘)または、スクリュー釘を使用してください。(下貼りを通じて根太上に打ち、固定してください。)
- ※杉厚:30mmの床板(ノン垂木・ぬくもり等)については、必ずスクリュー釘(50mm以上)を使用してください。
- ◎接着剤は、根太専用ボンドを使用してください。木工用ボンドは、硬化するため床鳴りする場合がありますので使用しないで下さい。(接着剤は、床材裏面のメスザネ側に1列、点付けで使用します。)
- ◎1列目のフローリングは凹(メス)サネ部分を壁側に向け、使用する巾木の厚さを考慮し、長辺側・短辺側に壁から5mm程度、木のクサビ等を使い隙間を空けてください。後に傾斜や歪みが出ないよう、壁面と平行を保ちながら施工してください。(1列施工後に、次の列との結合部分に水糸を張り、真っ直ぐに施工してください。)(図5・図6・図7)
- ◎当商品は、湿度の影響等により±2mm程度板幅・板長さも伸縮する場合があります。これは、天然木の特徴ですであらかじめご了承ください。施工する際、この板幅のズレにより木口が合わなくなることがありますが、調整しながら施工してください。
- ◎はみだし窓サッシとの納め、また敷居納め場合は、必ず隙間をとり、コーキング処理をしてください。
- ◎釘は、凸(オス)サネ側から45度の角度で打ち込みます。(釘頭は、ポンチで締めてください。)(図4)
- ◎張り込みの際の板の並びはきつく締めつけず、「つく」程度(約0.2mm)に施工してください。ただし、輸入フローリングにつきましては、膨張時の反りを防ぐため名刺1枚分(約0.3mm厚)紙等を、間隔を開けスペーサーとして挟み込みながら取り付けてください。(図8)(スペーサーは、全てのフローリングを張り終えてから取り外してください。)
- ◎施工中は、接着剤が完全に乾燥するまでの間(約30分間)は、施工済みの床上に乗らないで下さい。
- ◎施工の際は、凸(オス)サネ部分を直接ハンマーで叩くとサネが破損しますので、専用の木型を現場作成の上、使用することをお勧めします。
- ◎最終列も1列目同様に壁面との間に5mm程度クリアランスをとり張り納めます。フローリングを寸法に合わせて切断し張り納めてください。壁面に使用したクサビは最後の施工が完了してから24時間以上経過してから取り外してください。

施工後の注意事項

◎施工後は、フローリング面全てを養生シートの四方は壁まで200mm以上立ち上げてください。跡残りや、めくれが起きる事がある為、フローリングの表面に養生テープを直接貼る事は避けてください。
[注意]表面圧縮・床板においては、塗装が剥がれる場合があります。



ノン垂木・屋根用 施工要領

■保管方法

- ◎湿気の強い箇所、雨水や水などのかかりやすい箇所及び直射日光のあたる場所に保管しないでください。
- ◎水平な場所に同じ高さのリングを置いて保管してください。

施工前の注意事項

◎無垢材の性質上、施工の1週間程前に開梱した状態で現場環境に馴染ませてください。
◎当商品は、湿度の影響等により±2mm程度板幅・板長さも伸縮する場合があります。これは、天然木の特性ですのであらかじめご了承ください。施工する際、この板幅のスレにより木口が合わなくなる事がありますが、調整しながら施工してください。

下地施工

- ◎軒桁、母屋、棟木は、あらかじめ芯振り分けて斜め加工(勾配)してください。
- ◎母屋は、105mm角以上の乾燥材を使用してください。
- ◎棟木は、105mm×高さ：120mm以上の乾燥材を使用してください。

仮並べ

◎色味、目合い、節の状態は、1枚1枚異なりますので施工直前に仮並べをしてからバランスをとり施工してください。欠点部分は取り除くか目立たない場所に使用してください。

張り込み

- ◎桁生きを芯振り分けて軒先より振りはじめてください。
- ◎妻側は、ノントルキをカットして屋根の出を調整する。
- ◎ステンレス釘等の耐腐蝕性防錆釘をご使用ください。(鉄・ユニクロ・銅釘は、腐蝕・錆が発生しますのでさけてください。)
- ◎釘の形状は、リング釘、又は、スクリュー釘(75mm)をご使用ください。
- ・軒桁には、3本以上釘で取り付ける。
- ・棟木には、3本以上釘で取り付ける。
- ・縦方向の繋ぎめは釘で取り付ける。

ノン垂木・屋根用 (野地)の特徴

◎貼り込みの際の板の並びはきつく締めつけず、「つく」程度(約0.2mm)に施工してください。
◎当商品は、湿度の影響等により±2mm程度板幅・板長さも伸縮する場合があります。これは、天然木の特徴ですのであらかじめご了承ください。施工する際、この板幅のスレにより木口が合わなくなることがありますが、調整しながら施工してください。

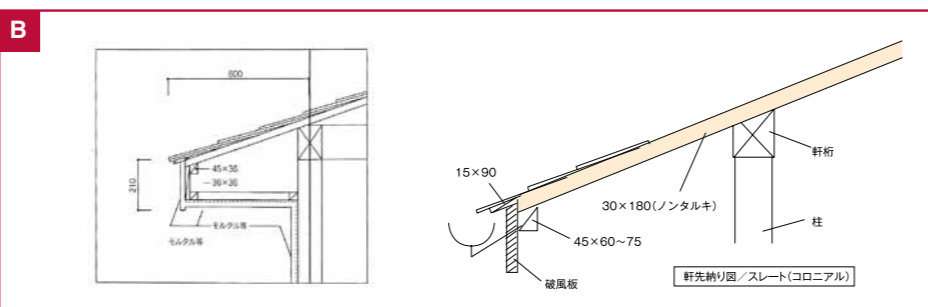
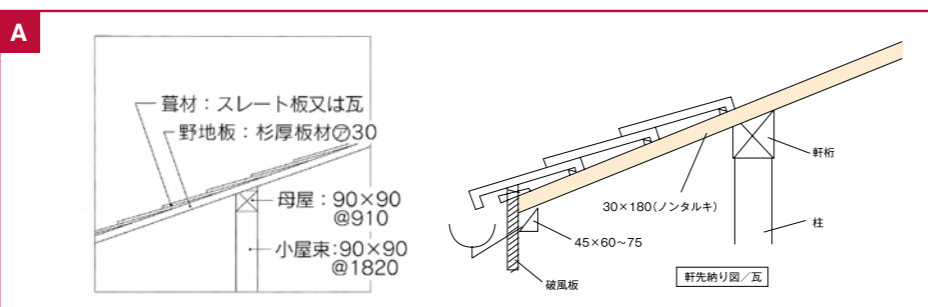
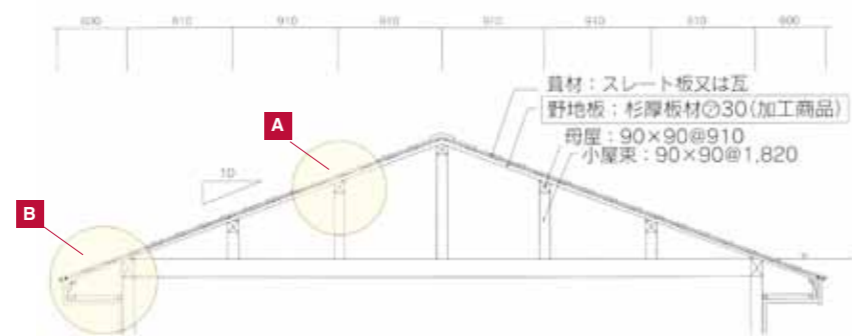
◎木材は、木表側に反る性質を持っているので軒先が下がらないように小屋裏側に木裏側を向ける様に加工してあるのが軒裏化粧仕上げ材として使用できます。
◎ノントルキは木表側に縦方向に溝をつけ本実の合わせ部分は密着し木裏側はクリアランスがみてあり雨漏りを防げます。(木表側に溝を付けたのは万が一雨がノントルキまで来て溝を雨が流れ落ちる。)

◎瓦棧の下に縦方向に溝をつけてあるので縦線は必要ない。

◎作業する時は、底がゴム製の靴を履き、滑らない様に注意する。◎作業による材料の切り屑など取り除いてください。

施工時の注意

断面図



ノン垂木・ 屋根用納まり イメージ図

外壁材 施工要領

■保管方法

- ◎湿気の強い箇所、雨水や水などのかかりやすい箇所及び直射日光のあたる場所に保管しないでください。
- ◎水平な場所に同じ高さのリングを置いて保管してください。

施工前の注意事項

◎無垢材の性質上、施工の1週間程前に開梱した状態で現場環境に馴染ませてください。
◎各商品ページに記載してある寸法は商品加工時の平均値のため厳密な数値は多少の誤差があります。特に生産後湿度の影響により、板幅・板長さも±2mm程度伸縮する事がありますのであらかじめご了承ください。
◎各商品ページに記載している商品には、表面裏面の区別があり、品質管理・加工・施工方法は表面に関するものです。

塗装について

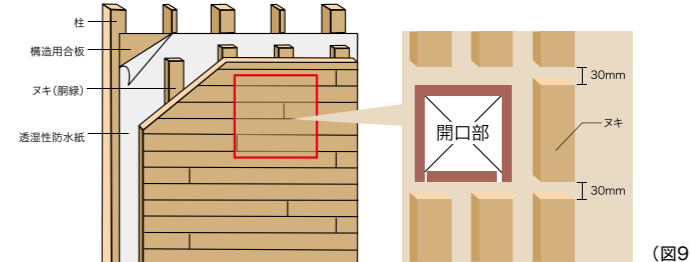
- ◎施工前、表裏両面(サネ部分含む)および木口面に初回の塗装を行ってください。
- ・表裏両面の含水率を均一に保ち、湿気ならびに乾燥の影響による形状変化を軽減する為。
- ・収縮が原因でサネ合わせ部分に隙間が生じた場合、無塗装部分の露出を防ぐ為。
- ◎外装材については、粗挽き面を塗装する事により耐久性が格段に高まります。
- ◎板の呼吸を妨げない木材製品専用の浸透性保護塗料(オイルステイン系)をお勧めいたします。
- ◎クリア塗装の外部使用は紫外線による変色・劣化が早いためお勧めしていません。
- ◎塗装方法は、使用する塗料メーカーの施工要領に従い確実に行ってください。
- ◎縦張りの場合、土台水切りに接する木口面は念入りに塗装を行ってください。
- ◎事前にカットサンプル等で試験塗装を行ってください。

◎下地の防水処理を行なってください。
・間柱または、構造用合板の上に透湿性防水紙を貼ってください。
・防水紙の重ね幅は、100mm以上とり、継ぎ目と端部はすべて防水テープを目留めしてください。特に下地材と開口部材(サッシ・ドア枠)との継ぎ目部分は、すべて念入りに防水テープで目留めしてください。

◎通気層を確保してください。
・防水紙の上に防腐処理したヌキ(銅線)で木下地を組み通気層を確保してください。壁内部の結露や腐食を防止し、木製サイディングの耐久性を維持する為にとっても重要です。

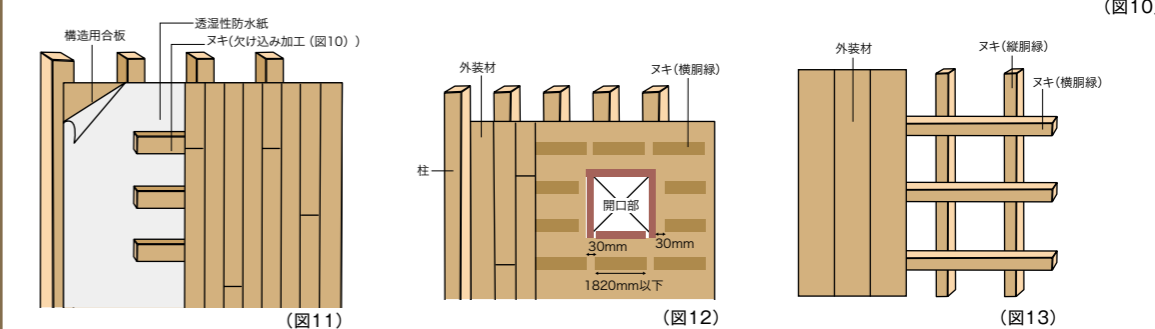
◎外装材を横張りする場合=ヌキを縦に施工

- 500mm以内の間隔でヌキを縦に施工(図9)
- 開口部の上下は30mm程度隙間を開けてください。(図9)



※外装材を縦張りする場合=下記の3つの方法から選択してください。

1. 適所に欠け込み(エアホール)加工を施したヌキを水平に施工。(図11)
2. ヌキを水平に取り付け、1820mm以下の間隔で30mm程度の隙間を開けて施工。(図12)
3. 最初にヌキを縦に取り付け、その上にさらにヌキを水平に重ねて施工。(図13)



注意点 ★コンクリート打ち放し面に木製サイディングを直張りしますと、コンクリートが放出する水分をサイディングが吸収し、反りや膨らみの原因となりますので避けてください。
★鉄骨造の外装に木製サイディングを施工する場合は木下地を組み施工してください。鉄骨下地に木製サイディング直張りしますと鉄骨造の動き(歪み)が直接外装材に伝わり、割れや反りの原因となりますのでさけてください。

釘について

◎ステンレス釘等の耐腐蝕性防錆釘をご使用ください。(鉄・ユニクロ・銅釘は、腐蝕・錆が発生しますのでさけてください。)

◎釘の形状は、リング釘、又は、スクリュー釘をご使用ください。(ピンタッカーによる施工は、施工後に釘が飛び出し保持力が劣る恐れがありますので避けてください。)

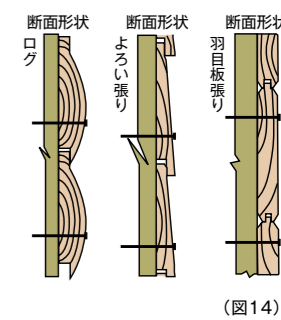
◎使用する釘長さは、施工する板厚の約3倍が目安です。

◎釘は、板面に対し垂直に1本打ち(脳天打ち)してください。(図14)実打ち(隠し釘)は、釘の保持力が低下し、木材の割れ・反り・伸縮などの要因となる為さけてください。

◎板が重なる合欠部分への釘打ちはさけてください。また、板幅に対して2本の釘を打つ場合は、間隔を開けずに打ってください。釘の間隔を開けて2本打ちした場合は、板の伸縮により釘打ち部分から割れなどの要因となります。

◎継ぎ手部分の釘位置は、割れ防止のため、端から20mm以上離し、下穴加工してから釘を打ってください。

◎釘頭は、打ち込み過ぎず、サイディングの表面と平らになるようにしてください。



(図14)

張り方

◎各商品ページに記載している有効幅は商品加工時の平均値のため厳密な数値は、多少の誤差があります。生産後、湿度の影響により±2mm程度、板幅、板長さも伸縮する場合があります。これは、天然木の特性ですのであらかじめご了承ください。(施工する際、この板幅のズレにより木口が合わなくなることがありますが、調整しながら施工してください。)

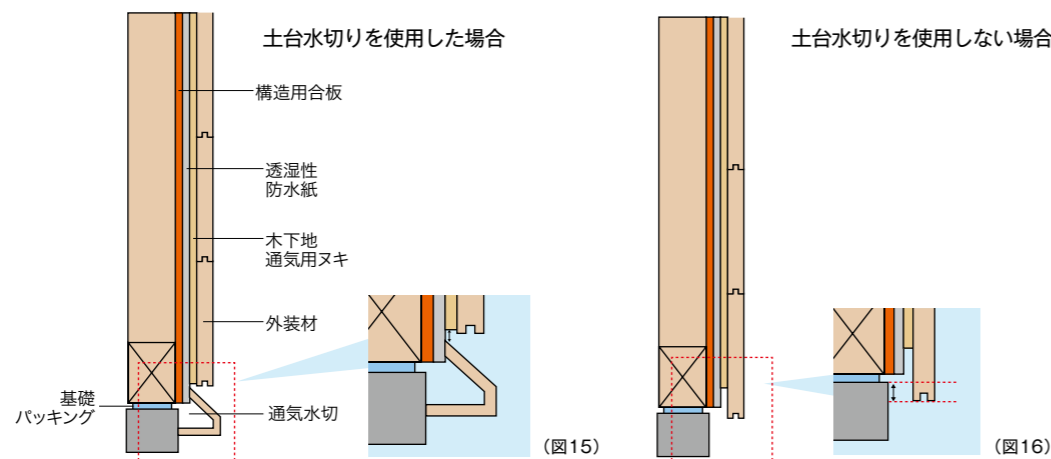
◎下地の合板やヌキ(胴縁)の継ぎ目と、製品の継ぎ目が重ならないように施工してください。

◎板と板の縦方向の継ぎ方は、木口を45度に斜面カットしてスカーフ継ぎで納めてください。(切り使いによって出る短尺物も乱尺張り施工する事によって有効利用される事をお願い致します。)

◎本実加工・合欠加工商品共に、サネ合わせ部分は、きつく締めすぎず、若干隙間をとるようにしてください。

◎外装材を横張り施工する場合は、必ず凸(オス)サネ側を上向きに施工してください。

土台水切り部分の納まり



◎ダクトなど開口部はコーキング処理をし、更に廻り全体を防水テープでも貼ってください。

◎開口部にかかる部分には、幅の狭いサイディング材が当たらないよう割付けしてください。

◎土台水切りを使用する場合、開口部の水切り上部は、水抜けのための10~15mmのクリアランス(隙間)をあけてサイディングを貼ってください。

◎サイディングと開口部との納まりは差込み、もしくは、コーキング処理してください。

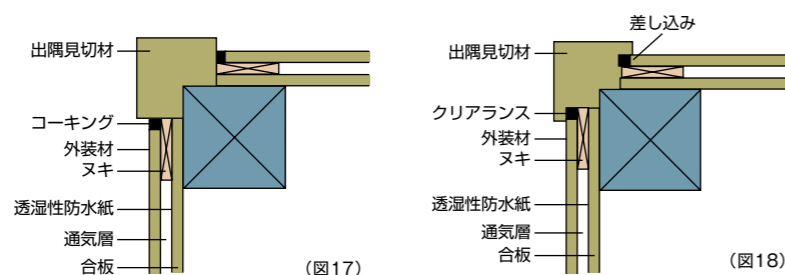
◎土台水切りを使用しない場合、基礎よりサイディングを3mm程度下に出してください。

開口部の納まり

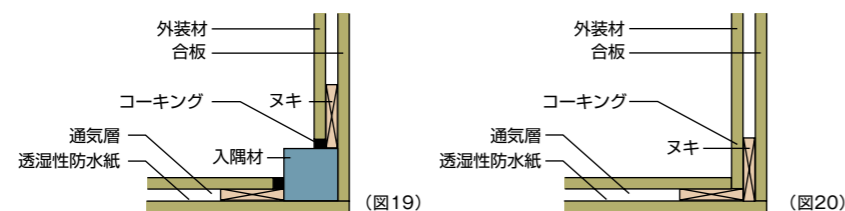
出入隅について

外装材専用の出隅材・入隅材の既製品は取り扱っておりません。

出隅納まり例



入り隅納まり例



塗装メンテナンス

◎外装材は、耐久性を高めるために再塗装が必要です。施工1ヶ月後に1回のメンテナンス(再塗装)が有効であり、この時期をのがしますと、その後の劣化を促進します。

より長く美しさを保つために、定期的にメンテナンスされることをお勧めします。

メンテナンスの時期は、建物の立地条件などにより変わりますが一般的に、外装南西面で約2~3年、北・東面で3~4年が目安となります。メンテナンスの際も施工時に使用した塗料メーカーのマニュアルに従い確実に行ってください。

粗挽き材推奨

◎外部に使用した外装材は、雨、風、雪、紫外線等の環境にさらされています。

樹種によっては、耐腐朽性の高い特性を持つ木材もありますが、当社では、木材を保護する最終手段は塗装にあると考えております。そこで、当社では、表面の粗挽き仕上材をお勧めいたします。それは、表面の粗挽きの状態では仕上げるにより塗装をする際、通常の2~3倍の塗布量が必要となります。つまり、通常のサンダー(ブレンダー)仕上げ商品と比較すると塗布量が多くなる分、表面の劣化を遅らせる事ができ結果的に保護効果は高くなると考えております。また、木の質感がよく出るのも魅力のひとつです。

〈無垢材使用上のご注意〉

- 1枚1枚性質の違う無垢材ゆえに色や木目が揃わない事がありますので、あらかじめご了承ください。
- 加工・乾燥等製造過程上、品質維持に努めておりますが、多少の反り・ねじれ等が生じる場合があります。
- 納入商品の中には、お客様にとって好ましくない色味・目合い・節状態のものが混入する場合があります。その場合は、目立たない場所に使用したり、切り使いでその部分を除去してからご使用ください。
- 空気中の水分を吸収および放出する特性を持つ為、膨張・収縮が生じます。

免責事項【製品の不具合原因が下記のような場合】

- 特殊な自然現象・周辺環境等の不可抗力に因って生じた場合
- 商品の経年変化による自然劣化(割れ・ササクレ・欠け・節抜け・伸縮・反り・変色・退色・汚れ等)および、これらが原因となって生じた天然素材として含有する匂いや成分が、人体に嫌悪感や体調不良等の影響を与えた場合
- 商品を二次加工(切断・切削・研磨・穴加工・薬剤注入・再度の人工乾燥等)した事によって生じた場合
- 建物自体の変形や変位、及び下地材の腐食・割れ・変形等によって生じた場合
- 製造時に、実用化された技術では予測することが不可能な現象によって生じた場合
- 不具合が生じた時点で、速やかに適切な処置を施さないことによって生じた場合
- 入居者又は第三者による不適切な使用又は、建物の維持管理不足によって生じた場合
- その他、当該不具合の発生が弊社の責によらない場合

おことわり

- 掲載の製品、及び表示価格は2010年1月現在のものです。
- カタログ掲載の価格は、メーカー希望小売価格で消費税及び施工費は含まれておりません。
- 市況その他の情勢により、価格や仕様、当カタログの内容等は予告なく改定する場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 製品および施工写真は、印刷の関係色調が多少異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明な点がございましたら、当社までお問い合わせください。

お問い合わせ

株式会社 高嶺木材

【本社・工場】
〒889-2311
宮崎県日南市大字伊比井173-1
TEL.0987-29-1234 FAX.0987-29-1434
URL.http://www.taka-moku.co.jp/
【東京営業所】
〒343-0023
埼玉県越谷市東越谷2-13-4 レオパレスBigハロー103号室
TEL.080-1543-4668 FAX.048-967-6712
【大阪出張所】
〒581-0815
大阪府八尾市宮町1-3-8
TEL.090-4514-7135 FAX.072-994-1631
【鹿児島営業所】
〒899-5431
鹿児島県始良市西餅田924-50
TEL.090-7464-8068 FAX.0995-73-5998
【鹿屋営業所】
〒893-0037
鹿児島県鹿屋市田崎町2837番地3
TEL.080-2690-5896 FAX.0994-45-4590